

成果報告書

(地域文化倶楽部創設支援事業)

袋井市文化協会グループ ←団体名等

所在地	静岡県袋井市	設立年	2012年
運営主体	袋井市文化協会グループ		
事業目標	<p>①これまでそれぞれで活動していた様々なジャンルのこども向けのワークショップ参加者が横の繋がりを作り、市民音楽劇という目標に向かって継続的に練習することで、参加者同士の交流を図るとともに、多様なジャンルの文化芸術活動の体験の場を作る。</p> <p>②本活動を通して多様なジャンルの文化芸術を楽しむ参加者及び両親や祖父母といった世代間での交流が深まる。このことにより、今後月見の里学遊館の文化芸術活動の支援者となり、月見の里学遊館の情報発信や館を利用した文化芸術活動が活発になり、地域文化向上に繋がる。</p> <p>③地域の講師と各ジャンルのプロの講師が連携することで、より質の高い文化芸術を体験する場とし、また、地域の指導者に刺激を与えて指導の質を向上させていく。</p> <p>④月見の里学遊館と地域の文化芸術活動団体、保護者、ボランティア、学校、市が連携しこどもの文化芸術体験の受け皿となるコミュニティを作り、育て、地域活性と文化芸術力の向上を目指す。</p>		
きっかけ	<p>これまで月見の里学遊館では、主催事業でこども合唱団、貸館事業でダンス教室、ジュニアミュージカル教室、ゴスペルサークルなど様々な文化芸術活動が行われているが、各々活動しているだけで全く繋がりがなかった。そこで、地域全体で文化芸術活動を推進するため、それらの活動を繋げ一緒に上演できる音楽劇を制作し、その上演を目標に活動することになった。</p>		
団体・組織等の連携	<p>【イメージ図】</p>		
活動場所	袋井市月見の里学遊館		
活動概要	<p>【袋井市の文化施設として周辺地域の文化芸術活動と連携しこどもたちの文化芸術体験の場を持続的に作り、学校のクラブ活動を支援する】</p> <p>①これまで個別に活動していたこどもたちの文化芸術体験の場を繋げ、音楽劇の発表を目標に活動することで、横の繋がりを作り、袋井市の文化芸術体験の場を広げ、学校のクラブ活動を支援する。</p> <p>②月見の里学遊館だけで活動するのではなく、地域で活動している文化芸術系の教室や団体、学校、保護者、市と連携することで、より多くの方々に関わっていただき、袋井市全体でこどもたちの文化芸術体験を持続的に行うことを実現する。</p> <p>また、音楽劇を2年に1回など継続して開催することで、新たに加わっていただく個人、団体を増やし、活動を継続的且つ発展的なものとするために、月見の里学遊館を核とした地域の文化芸術活動を支援するコミュニティを育成していく。</p>		

○本事業による成果

従来の活動の成果のみではなく、本事業を実施したことにより得られた成果について記載すること。(数値やグラフで示すものがあれば望ましい)

【学校の働き方改革への寄与】

今回、袋井市文化協会グループで事業を開始し、アンケートやヒアリングを取った結果、袋井市内の学校での文化芸術活動の内容を把握することができ、多くの文化活動やスポーツ活動が削減され、課外活動に対しても小学校はほぼなく、中学校でも課題があることが分かり、市の文化施設として何ができるか考えるきっかけとなった。学校の負担を減らし、子どもたちにこれまで通りの文化活動を享受するためには、地域や保護者との連携が必須であり、特に市内の各地区にあるコミュニティセンターと連携することで、市内全体の子どもたちに文化活動の機会を与えることができると感じた。しかし、継続的に袋井市全体でより良い活動を行うためには地域だけで行うことは難しく、行政の協力が必須だと感じた。袋井市へ、今後、連携の必要性を働きかけ、市の教育委員会だけでなく、コミュニティセンターの管轄部署である協働まちづくり課とも連携して、子どもたちの文化芸術活動の機会を増やしていきたいと考えている。

【部活動の教育的意義】

地域移行したとしても、特に意義は変化しないと考える。

【教員の関与】

基本的には人材バンクを利用しているので、そこへの登録をしていただき指導に加わっていただくことができる。

【関係者への理解】

学校関係者はこれ以上、課外活動はできないしお任せしたいという意見が多く、協力を仰ぐのはかなり難しいと感じる。その代わりに、地域のコミュニティセンターと協力して活動を進める可能性はある。

【教育委員会の参画】

活動の広報などの分担はお願いできるが、そもそも部活動の地域移行に対して理解が少なく、今後にも必要性について働きかける必要がある。

【人材確保】

1人の負担を減らすため、各ジャンルごとに講師を立て、さらにコーディネーターとの連携も取っている。

【部活動の代替としての活動】

学校と同様、施設使用料がかからず、内容も合唱やダンス、演技と、楽器などがかからない事業のため、普段の活動は参加者からの月謝でかなりの部分を賄うことができるので、部活動の代替となる可能性は充分にある。また、講師についても地域の各ジャンルのプロにお願いしているので、質も確保もできる。

■各活動について

【合唱】

4月からの毎週の練習により、子どもには難しいとされる、地声ではなくお腹から声を出す頭声発声法を練習し、2声で安定した声で歌うことができるようになった。音楽劇で上演する曲だけでなく、20曲以上練習してきた。12月にはクリスマスコンサートへ出演し成果を発表するだけでなく、大人の合唱団やプロオーケストラと共演してお客様の心を動かすコンサートを開催することができた。

◎合唱団メンバーが感じた変化(2021年度アンケートより) / 音符が読めるようになった。歌が好きになった。歌が上手になった。自信がついた。音楽の授業が得意になった。成績が上がった。休日に友達と遊ぶようになった。母親に歌が上手と言われるようになった。

【演技】

11月のオーディションで決まった参加者が1月から活動を開始した。発声練習などの基礎的なことも行うが、演技が上手になることを目指すのではなく、他人に感動を届けられる表現者になることを目標にワークショップ内容を企画し、練習した。

◎ワークショップメンバーが感じた変化(アンケートより) / 声の発音がうまくなった。苦手なことにも前向きになった。自分をもっと出せるようになった。

【交流活動】

成果 当初3回程度計画していたが、コロナの影響により、大勢で集まることを中止し、小グループで各々練習することになったため、1回のみ開催となった。

内容:ミュージカル俳優の綿引さやかさんによる表現力を学ぶワークショップ。こうさぎ合唱団と演技ワークショップ参加者が参加し、その家族が見学した。プロのミュージカル俳優の歌唱を間近で鑑賞した後、様々な感情を乗せて歌うことを練習した。普段の指導によって身に付いた基礎技術・表現に加え、プロの表現者による指導により、子どもたちの表現方法の幅が広がった。また、合唱団、演技ワークショップの各指導者にも参加して頂くことで、今後の指導方法の参考にして頂くことができた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

指導を行う上で独自で工夫していることについて記載すること。

【コンサートへの出演】

合唱については文化施設の強みを生かし、毎週の練習だけでなく12月に一般客を入れての「クリスマスコンサート」に出演し、地域のプロオーケストラや地域で活動している大人の混声合唱団とともに出演した。一般客を入れた有料のコンサート出演という明確な目的を持つことで、こどもたちの練習に対する熱意が上がり、レベルアップが図れた。また、出演後のこどもたちのモチベーションが更にアップした。

【プロの講師と地域講師の連携】

演技については、全国的にも珍しい静岡県が運営する演劇団体「SPAC」の元俳優と地域のミュージカル教室の講師へ指導をお願いし、プロの俳優と地域の指導者の連携を取って指導を行うことで、地域の事情や状況を把握しながら指導することができた。

【ワークショップの開催】

一般的な練習だけでなく、講師も受講生も一緒に学び創造するワークショップを開催し、参加者の創造性や表現力を上げることができた。また、参加しているこどもの保護者に演劇サークルの主宰者がいるので、そういった方や地域講師に練習だけでなく創造性のあるワークショップをディレクションすることで、新しい指導や内容を受受できた。

【ディレクターの採用】

文化芸術関係のコーディネーターや地域活性アドバイザーなども行っているディレクターを採用したことで、首都圏からのプロの講師の招聘が容易にでき、これまでの市民の発表レベルよりも質の高いレベルで練習やワークショップを行うことができた。

【講師連携】

特に研修制度はないが、地域講師、プロのアーティスト、ディレクターの話し合いで、一方が教えるのではなくお互いが刺激を受け、地域の状況は地域の講師から教えられ、プロやディレクターは新しい指導やワークショップを提供して下さることで、地域講師が新しい指導や文化芸術に関する考えた方を得ることができた。

○運営上の工夫

運営上、工夫している点を記載する。

- ・文化施設の強みを活かし、ホール公演の出演者やワークショップの指導者をお願いするために作ってきた人材バンクを活用し運営する。また、出演者や講師だけでなく、地域サポーターなどの顧客リストも作成し活用している。
- ・募集については、公式ウェブサイト、袋井市の広報へ掲載、学校への配布、地域の文化団体への配布などを主にしているが、市長の記者会見やフェイスブック、インスタグラムなどのSNSを利用することで大きな反響があった。
- ・首都圏や浜松で活躍しているディレクターと一緒に活動することで、コーディネーターがいつでも相談でき、質の高い活動にするためのアドバイスをいただけた。
- ・活動の内容が合唱、ゴスペルやダンスや演技で構成しているため、楽器などは使用しないので、指導自体にお金をかけることができた。
- ・音楽劇で上演する物語を絵本にし、その絵本をもとに音楽や朗読をつけて「オンライン絵本」を作り、コロナ禍でも活動の周知や練習ができるよう活用した。
- ・保護者への活動の連絡はLINEのグループを使って行うことでスムーズに経費を使わず連絡できた。
- ・音楽劇の上演を目標に、地域の各ジャンルの指導者をお願いしているため、各々分担することができ、無理のない活動ができた。

○継続的な運営に関する課題・展望

活動場所、指導者、活動経費、教育機関や地域等との連携等、様々な観点からの課題と展望を記載する。

【展望】

・袋井市教育委員会が指定管理の担当部署であるため、活動のプレスリリースを市長記者会見で行ったり、袋井市民全体のメルマガへ広報をしていただき、広く周知することができた。今後も、連携して広報する予定。
・会費を通常の習い事の1/2程度に押え、保護者や参加者からの理解は得られているため継続の可能性は十分にある。
・体を動かす演技ワークショップに関しては、保険に加入した。来年度から合唱についても保険に加入する予定。
・指定管理者として市から文化施設の運営を任せられ、会場使用料は一切かからないため、指導者への支払いに集中でき、指導者からは満足いただいている。また、施設料や楽器代などがかからないので、練習のみなら月謝で講師料を賄うことがほぼできているため、活動を継続できる。
・練習以外の首都圏からの講師招聘や、音楽劇に制作については別途資金が必要なため、毎年、助成金に応募する予定だが、今後、より内容を充実させた活動を継続的に進めていくたり、地域企業と連携を図るため協賛活動を行う予定。
・ICT活用としては、コロナ禍対策としてオンライン絵本を作成して練習に活用したり、保護者への連絡、広報活動でLINEやSNSを利用、顧客管理でサイボウズのキントーンを利用している。

【課題】

・袋井市内の小学校へ活動募集チラシを配布したが、袋井市文化協会グループで運営しているため、教師への負担はない。ただし、市内に12か所ある小学校や4か所ある中学校の部活動と比べて、当施設は1か所で袋井市の北部にあるため、南部の生徒には交通の便が悪く、袋井市全ての生徒へ平等に活動の機会を与えることができていない。今後は、地域コミュニティセンターなどと連携し、この問題を解決していきたい。また、学校で無料だった部活動がこの活動により有料となるので、低所得者層のこどもが参加しづらくなり機会格差が生まれる可能性がある。
・教育委員会や学校の理解を更に深めるために、今後も度々、この活動について話し合いを行う必要があるが、どちらかというと、学校ではなくこれから部活動の代わりとして担う地域と連携する必要があると感じた。例えば、当施設の担当部署だけでなくコミュニティセンターの担当部署である協働まちづくり課とも理解を求め、連携する必要がある。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

上記の課題をどのように解決し取り組んでいくのか、方針や計画を記載する。

【地域格差の解決】

月見の里学遊館は市内北部にあり南部の生徒は参加しづらいため、地域格差がある。そのため、市内14か所にあるコミュニティセンターなどと連携し、合唱、ダンス、演技などのワークショップを14か所中、各ジャンル3か所程度地域を分けてコミュニティセンターで開催し、合同練習や発表は月見の里学遊館にて行う計画を立てている。各ジャンルの講師やコーディネーターを人材バンクや既にコミュニティセンターで放課後こども教室などで活動している元教師や地域ボランティアなどから選出し、活動をお願いする。活動に参加したい現役の教員も自宅に近いコミュニティセンターで活動をお願いする。コミュニティセンターについては、市の管轄が教育委員会ではなく協働まちづくり課となるため、担当部署とも連携する必要がある。

【所得格差の解決】

低所得者家族については、所得額に応じて月謝について補助を出すなどの措置が必要。企業からの協賛金などで対応したい。

【行政、学校への理解】

これまで担当部署とは連絡を取ってきたが、地域に活動を移行することについて積極的ではない印象を持った。教育委員会だけでなく、地域の担当部署である協働まちづくり課とも話し合い、行政へ理解をしていただく必要がある。

※上記4点の記載の中に活動の画像を挿入してもよい。

※『[地域移行\(展開\)を進める際のポイントチェックリスト](#)』を参照すること。

参加者 (予定人数)	<p>【合唱ワークショップ】小学1年生～5年生14名(女子:12名、男子2名) → 今後は全体で25名程まで増やす予定</p> <p>【演技ワークショップ】小学2年生～大人20名(女子15名、男子1名、大人男性4名)</p> <p>【交流ワークショップ】</p> <p>合唱ワークショップ参加者14名、演技ワークショップ参加者20名、参加者家族15名程、講師4名</p> <p>★今後の予定</p> <p>【ダンスワークショップ】小学2年～高校生 8名程度</p> <p>【出演者(予定)】①ゴスペルサークル 20名ほど ②室内楽演奏団体 15名ほど</p>
募集方法	チラシ配布、ポスター掲示、学校での通知、市の広報誌での案内、公式ウェブサイトでの案内、SNSでの案内・有料広告、地域の文化団体、教室での配布、地域のコミュニティセンターや広報協力店舗(約80か所)での案内
指導者	合唱/地域の指導者2名、演技/県内の指導者1名、地域の指導者1名、歌・表現/プロのミュージカル俳優1名
移動手段	保護者による送迎
活動費用	施設使用料/無料、講師謝礼:合唱13,000円(ピアノ伴奏料含む)/回2時間、合唱アシスタント謝礼:4,000円/回2時間、演技10,000円/回2時間×2人
スケジュール	<p>【合唱ワークショップ】</p> <p>基本活動:月4回 4月～ 基本土曜日10時～12時、</p> <p>6月 昭和の名曲コンサート出演</p> <p>12月 クリスマスコンサート出演</p> <p>成果発表と地域の大人合唱団やプロオーケストラ(音楽劇で演奏を担当するアンサンブル・ムジック浜松)と共演</p> <p>3月 演技ワークショップ参加者との交流会</p> <p>※この他、6月に県合唱祭や11月に磐田合唱祭へ出演予定が全てコロナで中止</p> <p>【演技ワークショップ】</p> <p>基本活動:月2回 1月～ 土曜日14時～16時</p> <p>11月 出演者オーディション開催</p> <p>12月 参加者顔合わせ、保護者説明会</p> <p>1月、2月 ワークショップ 各月2回 1月/体操・他己紹介:ペアを組お互いをインタビューして、お互いを他己紹介した。・発声の基本練習 ・身体表現 2月/</p> <p>3月 演技ワークショップ参加者との交流会</p> <p>【交流活動】</p> <p>一回目 3/5 土曜日14時～16時</p> <p>内容:こうさぎ合唱団 発表、ミュージカル俳優綿引さやかさんによるワークショップ、交流会</p>
保険加入等	行事参加者の障害危険担保契約 演技ワークショップ参加者 20名×5回分

※文化庁ホームページ:地域文化倶楽部(仮称)の創設に向けた検討会議 [事例集](#)を参照

掲載URL

(https://www.bunka.go.jp/shinsei_boshu/kobo/pdf/92801101_09.pdf)

※それぞれの項目に掲載しているのはあくまで例示ですので、掲載しているもの以外の観点等で自由に記載していただいて結構です。ただし、どこかの項目に学校の働き改革(教員の負担軽減)を踏まえた観点の記述を必ず入れていただきますようお願いいたします。(本事業の最大の目的であるため)

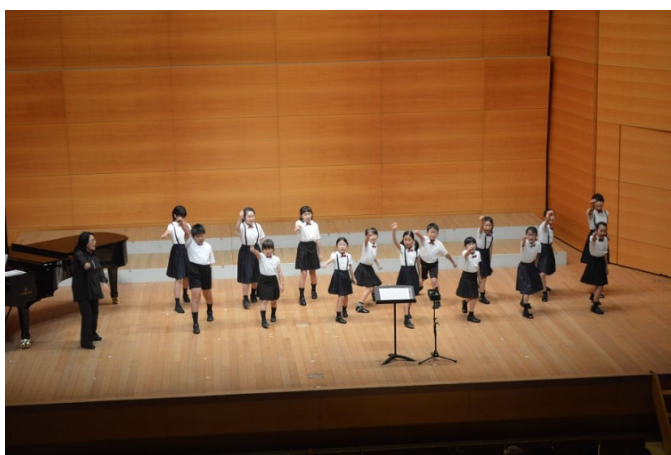
【活動の様子（写真添付）】

■こうさぎ合唱団

練習風景



クリスマスコンサート



■演技ワークショップ



■交流会

